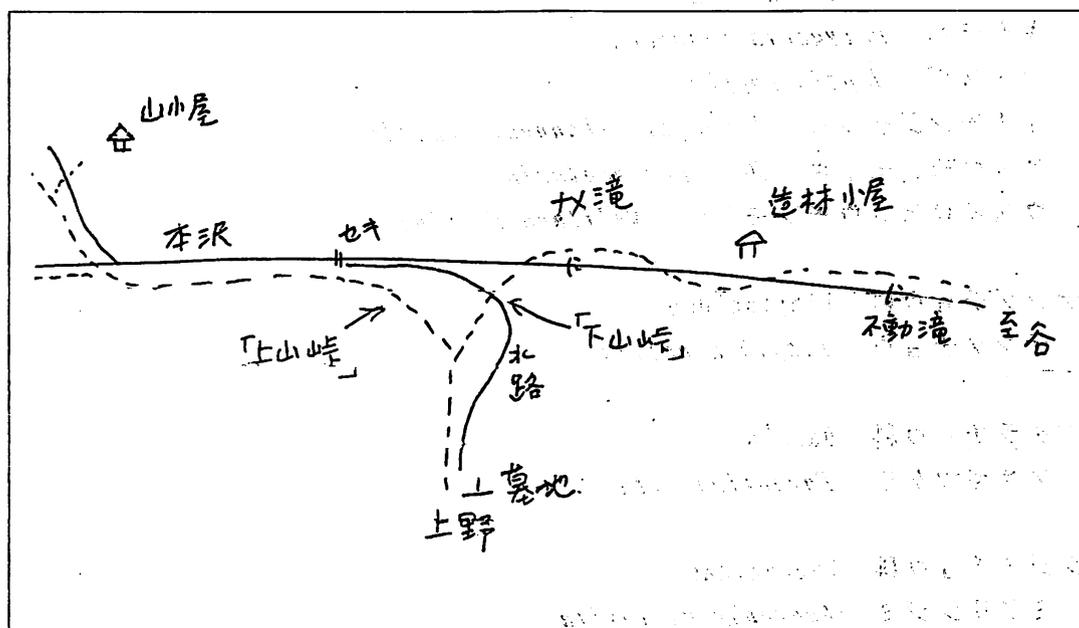


昭和40年代 波賀町上野の蝶の消長

富士本 正雄

筆者のもとにこのたび宍粟郡波賀町上野において、生活環境保全林事業が行なわれるにあたって鳥取大学の榎教授より、山小屋建設当時（拡大造林以前）の状況について知りたい旨、連絡がありました。二十数年以上も昔のことなので忘れてしまったことも多くあると思いますが、憶えている範囲で報告します。

筆者は前述の榎氏の大阪府立北野高校生物研究部の後輩で、現在奈良県治山課治山実行係をしています。山小屋に関しては、一番長く携わっている者です。特に昭和42、43年の2年には、2度の1ヶ月連続の造林小屋での飯場生活を含んで実に95日間も現地で山小屋建設に携わっていました。当時、山小屋へは林道は無く、上野の墓地の横から山道を約1時間かかって歩いて登っていました。山小屋の資材も総て人肩で運搬したのです。我々は、上野から登ってきて谷の流域に出る峠を「上山峠」、「下山峠」と呼んでいました。……地図参照



「上山峠」から上流へ、山小屋への山道は、数年前に行ってみました。道の上にも植林され道が無くなっていました。当時は「上山峠」から上流は、クヌギ、コナラ等の雑木林で林令は20年前後だったと思います。造林小屋は山小屋から2駅程下流で、壁の所々が剥がれていますが、今も林道の傍に残っています。

我々は、この造林小屋を飯場にして、山小屋の建設地に通っていました。山小

屋の周辺は今ではスギ林となり、林道も近くを通過しており、何故こんなところにあるような場所ですが、当時は明るい雑木林で湿地（湿原）が近くにあり、生物相が豊かでバス停（車道）からも適当に（1時間少々）離れていて、「上山峠」を越えると人里の騒音も全く聞こえない別天地だったのです。

「下山峠」から下流は、右岸側は当時既に植林されていました。左岸側は、林道の下は今も雑木林のままになっています。造林小屋の周辺はスギの2、3年生でした。

当時の昆虫ですが蝶についてしか記憶がありません。というのも筆者の専門が蝶でしたし、山小屋建設に忙殺されて本格的な採集をしていないからです。従って標本も殆ど残っていません。下記に当時見かけた蝶を列挙してみると

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

オオムラサキ *Sasakia charonda*

ゴマダラチョウ *Hestina japonica*

コムラサキ *Apatura ilia*

スミナガシ *Dichorragia nesimachus*

ルリタテハ *Kaniska canace*

キタテハ *Polygonia c-aureum*

コムスジ *Neptis sappho*

イチモンジチョウ *Limenitis (Ladoga) camilla*

ヒョウモンモドキ *Melitaea scotosia*

ウスイロヒョウモンモドキ *Melitaea diamina*

テングチョウ科 *Libytheidae*

テングチョウ *Libythea celtis*

マダラチョウ科 *Danaidae*

アサギマダラ *Parantica sita*

シジミチョウ科 *Lycaenidae*

ミドリシジミ *Neozephyrus taxila*

オオミドリシジミ *Favonius orientalis*

トラフシジミ *Rapala arata*

ゴイシシジミ *Taraka hamada*

ジャノメチョウ科 Satyridae

オオヒカゲ *Ninguta schrenckii*

キマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*

クロヒカゲ *Lethe diana*

ヒカゲチョウ *Lethe sicelis*

ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus*

ジャノメチョウ *Minois dryas*

コジャノメ *Mycalesis francisca*

セセリチョウ科 HesperIIDae

ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor*

アオバセセリ *Choaspes benjaminii*

アゲハチョウ科 Papilionidae

クロアゲハ *Papilio protenor*

カラスアゲハ *Papilio bianor*

を記憶しております。当時の我々大阪府立北野高校生物研究部員にとってオオヒカゲ、ヒメヒカゲ、ゴイシジミ、ヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキ等は東山（上野）でないと採集できない種類でこれらの蝶がいたことも山小屋の建設地を決定した大きな理由になっていました。

山小屋の前の小沢を少し下った本沢にはアマゴが生息しており、当時、筆者は大工仕事やボッカ（資材運搬）の暇をみては、よく魚釣りをしました。現在水谷から上って来る林道が峠を越えるとすぐに小沢を渡っていますが、その小沢をさらに2~300mも上流まで釣り上がりました。当時は25cm以上の大物も結構釣れたものです。

近年、山小屋へは年に2、3回。1、2泊程度しか行きませんので蝶やアマゴに関して詳しくはわかりませんが山小屋の周辺では以下の蝶は全く見かけません。

絶滅したと考えられる蝶

ヒョウモンモドキ

ウスイロヒョウモンモドキ

オオヒカゲ

ヒメヒカゲ

ギンイチモンジセセリ

これらは恐らく絶滅したのではないかと思われます。この中で特に残念なのはオオヒカゲ、ヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキです。この蝶は中部地方と中国地方に別れて分布していて（ウスイロヒョウモンは中国地方だけ）中国地方には局地的に多産する地域もあるようですが、産地はごく限られていて全国的にはかなり希な種類になっているようです。最近オオウラギンヒョウモンという蝶が環境庁から絶滅危惧種として指定されましたが、この蝶を含めて草原性の蝶は急速に減少しているようです。アマゴに関しても沢沿いの山道が使われなくなって、ササが茂って通れなくなり、最近はナメ滝から上流は釣っていません。が、以前は所々にあった淵が土砂で埋まって浅くなっているの、かなり減っているものと思います。造林小屋と山小屋の間では夕方になるとキジが鳴いていました。山小屋ができた当時、小屋に泊まって夜外に出ると小屋の周りで獣の眼がいくつも光っていることが度々ありました。多分タヌキが残飯をねらって寄ってきたものと思いますが、スギの成長につれてキジの鳴き声と共にこういうことも無くなりました。

植物では湿地の周辺の乾いた所にはオミナエシが、湿地の中ではトキソウやコモウセンゴケが多く、アヤメも所々に見られました。ナメ滝の下の雑木林ではエビネの大株がありました。湿地の規模や植生は以前とそれほど変わっていないように思います。

さて、東山の造林の経過を見てきて思うことは最大の自然破壊は造林だということです。治山や林道は点であり線であるのに比べて、造林では面的に自然破壊が行なわれるからです。東山の現状は湿原以外はすべてスギ、ヒノキの人工林になっていて雑木林は見つかりません。そしてそのスギ、ヒノキの人工林は除間伐が遅れ、林床には殆ど植生がありません。なかには一木一草もなく表土が流失してしまってスギの根が露出しているような箇所もあります。早急に除間伐を行う必要があると思います。しかし東山では既にいったい何種類の動植物が絶滅したことでしょうか。筆者の気づいた蝶に関してだけでも前述のとおりです。もっとミクロな眼でみれば、それこそ教えきれないのではないのでしょうか。

生活環境事業の自然林造成について筆者は本当の意味での自然林というものは人工的に造成することは不可能だと思っています。筆者は自然林の魅力は樹種の多用性（種類の多さ）だと思っています。筆者のように自然に興味のある人間は自然観察や、バードウォッチング、植物、昆虫採集等の目的で自然林を訪れるのです。そこで珍しい植物や昆虫、鳥を見つけて嬉しくなるのです。多くの樹種があり、いろんな昆虫や野生動物がいて、そういう目的の対象となりうるのです。事業によって導入できる樹木は、生産されている樹木で、せいぜい数十種類しかありません。従って事業では自然林造成というのは *ぞれぞれしい* 森林の造成であって、別の目的をもった人たちが魅力を感じる森林（例えばサクラばかりを植えて

サクラの名所にするとか)の造成だと思えます。当県ではかつて自然公園内の生活環境事業で、ノムラカエデや西洋アジサイを植えて生態学者の先生からお叱りを受けたことがあります。以上少々僭越なことを申しあげたかもしれませんが、このへんで擱筆いたします。

〔編集部注〕絶滅したと考えられる蝶のうちオオヒカゲ、ギンイチモンジセセリは山小屋付近には見られないが、上野地区として少数いまでも生息している。